

Sheaves on Manifolds Exercise I.31 の解答

ゆじとも

2021 年 2 月 9 日

Sheaves on Manifolds [Exercise I.31, [KS02](#)] の解答です。

I Homological Algebra

問題 I.31. $M \in D^b(\text{Ab})$ とする。

- (1) $M^* = R\text{Hom}(M, \mathbb{Z}) = 0$ であるとき、 $M = 0$ であることを示せ。
- (2) $M^* \in D_f^b(\text{Ab})$ であるとき、 $M \in D_f^b(\text{Ab})$ であることを示せ。

注意. (2) は $M^* \in D^b(\text{Mod}^f(\mathbb{Z}))$ という仮定のもとで $M \in D^b(\text{Mod}^f(\mathbb{Z}))$ を示す問題であったが、 $D^b(\text{Mod}^f(\mathbb{Z}))$ は $D^b(\text{Ab})$ の部分圏として同型で閉じていないので、これはかなり微妙な問題設定であり (成り立たないかもしれない)、上記の設定がより適切であると思われる。

証明. (1) を示す。まず $M \in \text{Ab}$ である場合に (1) を証明する。 $R\text{Hom}(M, \mathbb{Z}) = 0$ は $\text{Hom}(M, \mathbb{Z}) = \text{Ext}^1(M, \mathbb{Z}) = 0$ を意味する。このときに $M = 0$ を示す。単射 $\mathbb{Z}/n\mathbb{Z} \rightarrow M$ を任意にとると $0 = \text{Ext}_{\mathbb{Z}}^1(M, \mathbb{Z}) \rightarrow \text{Ext}_{\mathbb{Z}}^1(\mathbb{Z}/n\mathbb{Z}, \mathbb{Z})$ は全射となるので $\mathbb{Z}/n\mathbb{Z} \cong \text{Ext}_{\mathbb{Z}}^1(\mathbb{Z}/n\mathbb{Z}, \mathbb{Z}) = 0$ となって $n = 1$ となる。従って M はねじれなし群である。 $n \neq 0, 1, -1$ とすれば M/nM はねじれ群であるが、完全列 $0 \rightarrow M \xrightarrow{n} M \rightarrow M/nM \rightarrow 0$ に函手 $R\text{Hom}(-, \mathbb{Z})$ を施すことによって $R\text{Hom}(M/nM, \mathbb{Z}) = 0$ が従い、よって M/nM はねじれなし群でもある。これは $M/nM = 0$ を意味し、従って M は可除である。 M はねじれないので $M \rightarrow M \otimes \mathbb{Q}$ は単射であり、 M は可除なのでこれは全射でもある。従って $M \cong M \otimes \mathbb{Q}$ である。もし $M \neq 0$ なら、 M は \mathbb{Q} を直和因子として持つ。一方、完全列 $0 \rightarrow \mathbb{Z} \rightarrow \mathbb{Q} \rightarrow \mathbb{Q}/\mathbb{Z} \rightarrow 0$ に $\text{Hom}(\mathbb{Q}/\mathbb{Z}, -)$ を適用することにより、 $\hat{\mathbb{Z}} \cong \text{End}(\mathbb{Q}/\mathbb{Z}) \xrightarrow{\sim} \text{Ext}^1(\mathbb{Q}/\mathbb{Z}, \mathbb{Z})$ を得るので、同じ完全列に $\text{Hom}(-, \mathbb{Z})$ を適用することで $\text{Ext}^1(\mathbb{Q}, \mathbb{Z}) \cong \text{coker}(\text{Hom}(\mathbb{Z}, \mathbb{Z}) \rightarrow \text{Ext}^1(\mathbb{Q}/\mathbb{Z}, \mathbb{Z})) \cong \hat{\mathbb{Z}}/\mathbb{Z} \neq 0$ が従い、これは $\text{Ext}^1(M, \mathbb{Z}) = 0$ に反する。以上で $M \in \text{Ab}$ の場合に示された。

一般の $M \in D^b(\text{Ab})$ に対して (1) を示す。 $H^n(M) \neq 0$ となる最大の n をとる。このとき $\tau^{\leq n-1}(M) \rightarrow M \rightarrow H^n(M)[-n] \xrightarrow{+1}$ は完全三角である。 $R\text{Hom}(-, \mathbb{Z})$ を適用してコホモロジーをとることで、アーベル群の完全列

$$\begin{aligned} 0 &\longrightarrow \text{Hom}(H^n(M), \mathbb{Z}) \longrightarrow H^n(R\text{Hom}(M, \mathbb{Z})) \longrightarrow H^n(R\text{Hom}(\tau^{\leq n-1}(M), \mathbb{Z})) \\ &\longrightarrow \text{Ext}^1(H^n(M), \mathbb{Z}) \longrightarrow H^{n+1}(R\text{Hom}(M, \mathbb{Z})) \longrightarrow \dots \end{aligned}$$

を得る。ここで、 $R\text{Hom}(M, \mathbb{Z}) = 0$ であるから、 $H^n(R\text{Hom}(M, \mathbb{Z})) = 0, H^{n+1}(R\text{Hom}(M, \mathbb{Z})) = 0$ が成り立つ。さらに、[Exercise 1.21, [KS02](#)] を $\tau^{\leq n-1}(M)$ と $R\text{Hom}(-, \mathbb{Z})$ に対して適用することによって、 $H^n(R\text{Hom}(\tau^{\leq n-1}(M), \mathbb{Z})) = 0$ であることが従う。従って $\text{Hom}(H^n(M), \mathbb{Z}) = \text{Ext}^1(H^n(M), \mathbb{Z}) = 0$ が成

り立つ。すでに示している $M \in \mathbf{Ab}$ の場合により $H^n(M) = 0$ が従い、これは $H^n(M) \neq 0$ に矛盾する。以上で (1) の証明を完了する。

(2) を示す。(1) の証明と同様に、 $H^n(M) \neq 0$ となる最大の n をとり、アーベル群の完全列

$$\begin{aligned} 0 &\longrightarrow \mathrm{Hom}(H^n(M), \mathbb{Z}) \longrightarrow H^n(R\mathrm{Hom}(M, \mathbb{Z})) \longrightarrow H^n(R\mathrm{Hom}(\tau^{\leq n-1}(M), \mathbb{Z})) \\ &\longrightarrow \mathrm{Ext}^1(H^n(M), \mathbb{Z}) \longrightarrow H^{n+1}(R\mathrm{Hom}(M, \mathbb{Z})) \longrightarrow H^{n+1}(R\mathrm{Hom}(\tau^{\leq n-1}(M), \mathbb{Z})) \\ &\longrightarrow 0 \end{aligned}$$

について考える ($\mathrm{Ext}^2(H^n(M), \mathbb{Z}) = 0$ であることに注意)。[\[Exercise 1.21, KS02\]](#) を $\tau^{\leq n-1}(M)$ と $R\mathrm{Hom}(-, \mathbb{Z})$ に適用することにより、 $H^n(R\mathrm{Hom}(\tau^{\leq n-1}(M), \mathbb{Z})) = 0$ である。また、 $R\mathrm{Hom}(M, \mathbb{Z}) \in D_f^b(\mathrm{Mod}(\mathbb{Z}))$ であるので、 $H^n(R\mathrm{Hom}(M, \mathbb{Z})), H^{n+1}(R\mathrm{Hom}(M, \mathbb{Z})) \in \mathrm{Mod}^f(\mathbb{Z})$ である。従って、

$$\mathrm{Hom}(H^n(M), \mathbb{Z}), \mathrm{Ext}^1(H^n(M), \mathbb{Z}), H^{n+1}(R\mathrm{Hom}(\tau^{\leq n-1}(M), \mathbb{Z})) \in \mathrm{Mod}^f(\mathbb{Z})$$

である。さらに、 n より大きい部分のコホモロジーを見れば、

$$H^m(R\mathrm{Hom}(\tau^{\leq n-1}(M), \mathbb{Z})) \cong H^m(R\mathrm{Hom}(M, \mathbb{Z})), (\forall m > n+1)$$

であるので、 $R\mathrm{Hom}(\tau^{\leq n-1}(M), \mathbb{Z}) \in \mathrm{Mod}^f(\mathbb{Z})$ が従う。以上より、帰納的に、(2) を示すためには、アーベル群 M が $\mathrm{Hom}(M, \mathbb{Z}), \mathrm{Ext}^1(M, \mathbb{Z}) \in \mathrm{Mod}^f(\mathbb{Z})$ を満たすとき $M \in \mathrm{Mod}^f(\mathbb{Z})$ であることを示すことが十分である。

M をアーベル群であって $\mathrm{Hom}(M, \mathbb{Z})$ と $\mathrm{Ext}^1(M, \mathbb{Z})$ がどちらも有限生成であると仮定する。ねじれ部分を $T(M) \subset M$ として、 $F(M) := M/T(M)$ とおく。自然な射 $M \rightarrow \mathrm{Hom}(\mathrm{Hom}(M, \mathbb{Z}), \mathbb{Z})$ の像は $F(M)$ と同型であり、 $\mathrm{Hom}(M, \mathbb{Z})$ が有限生成であることから $\mathrm{Hom}(\mathrm{Hom}(M, \mathbb{Z}), \mathbb{Z})$ も有限生成であるため、 $F(M)$ は有限生成アーベル群である。従って、(2) を示すためには、 $T(M)$ が有限生成であることを示すことが十分である。完全列 $0 \rightarrow T(M) \rightarrow M \rightarrow F(M) \rightarrow 0$ に $\mathrm{Hom}(-, \mathbb{Z})$ を適用することにより、全射 $\mathrm{Ext}^1(M, \mathbb{Z}) \rightarrow \mathrm{Ext}^1(T(M), \mathbb{Z})$ を得る。従って、 $\mathrm{Ext}^1(T(M), \mathbb{Z})$ は有限生成アーベル群である。完全列 $0 \rightarrow \mathbb{Z} \rightarrow \mathbb{Q} \rightarrow \mathbb{Q}/\mathbb{Z} \rightarrow 0$ に $\mathrm{Hom}(T(M), -)$ を適用することにより、自然な同型 $\mathrm{Hom}(T(M), \mathbb{Q}/\mathbb{Z}) \xrightarrow{\sim} \mathrm{Ext}^1(T(M), \mathbb{Z})$ を得る。 $T(M)$ に離散位相を入れて \mathbb{Q}/\mathbb{Z} に \mathbb{R}/\mathbb{Z} の双対位相を入れることにより、 $\mathrm{Hom}(T(M), \mathbb{Q}/\mathbb{Z}) = \mathrm{Hom}_{\mathrm{cont.}}(T(M), \mathbb{Q}/\mathbb{Z})$ を連続準同型のなす位相群とみなすと、 $\mathrm{Hom}_{\mathrm{cont.}}(T(M), \mathbb{Q}/\mathbb{Z})$ は副有限アーベル群である。とくにコンパクトハウスドルフである。一方、 $\mathrm{Ext}^1(T(M), \mathbb{Z}) \cong \mathrm{Hom}(T(M), \mathbb{Q}/\mathbb{Z})$ はアーベル群として有限生成であるので、 $\mathrm{Hom}_{\mathrm{cont.}}(T(M), \mathbb{Q}/\mathbb{Z})$ は有限アーベル群であることが従う。Pontryagin 双対により、 $T(M) \cong \mathrm{Hom}_{\mathrm{cont.}}(\mathrm{Hom}_{\mathrm{cont.}}(T(M), \mathbb{Q}/\mathbb{Z}), \mathbb{Q}/\mathbb{Z}) = \mathrm{Hom}(\mathrm{Hom}(T(M), \mathbb{Q}/\mathbb{Z}), \mathbb{Q}/\mathbb{Z})$ であり、これは有限生成ねじれアーベル群である。以上で (2) の証明を完了し [問題 I.31](#) の解答を完了する。□

References

- [KS02] M. Kashiwara and P. Schapira. *Sheaves on Manifolds*. Grundlehren der mathematischen Wissenschaften. Springer Berlin Heidelberg, 2002. ISBN: 9783540518617. URL: <https://www.springer.com/jp/book/9783540518617>.